

JVCKENWOOD

会社案内 2025



変革と成長
Change for Growth

株式会社 JVCケンウッド

感動と安心を世界の人々へ

Creating excitement and peace of mind for the people of the world



企業理念シンボルマーク

当社の企業理念を象徴する「企業理念シンボルマーク」を新たに制定しました。

マーク全体が太く細くダイナミックに変化する様で「感動」を、右下部分がどっしりと地に着いた様で「安心」を表現。右上に向かって力強く伸びる文字をつなぐラインは、垣根を越えて世界中の人々とつながっていく様を表現するとともに未来への成長や挑戦を象徴し、当社の企業価値を向上させていくという意志も込めています。

経営方針

ものづくりを通じた
新たな価値の創造

変化ある未来に立ち向かう
企業風土の構築

イノベーションを実現する
人材の育成と組織能力の強化

4つの行動指針

変わる

創る

かせぐ

つなぐ



「変革と成長」を基本戦略に掲げ、 「感動」と「安心」を世界の人々へ提供していきます

JVCケンウッドグループは、「感動と安心を世界の人々へ」という企業理念のもと、ステークホルダーの皆さまと多様な価値を分かち合いながら、持続可能な社会の実現に向けて取り組み、企業価値の最大化を目指しています。

中期経営計画「VISION2025」の2年度目にあたる2024年度は、事業ポートフォリオの変革を通じて成長分野へのリソース集中を進めた結果、過去最高益を達成するとともに、全ての事業分野で増収を実現することができました。特にセーフティ&セキュリティ分野の無線システム事業とモビリティ&テレマティクスサービス分野の海外OEM事業が当社全体の成長をけん引し、

収益基盤の強化に大きく貢献しました。また、ESG経営の推進やサステナビリティの取り組みにも注力し、長期的な視点で成長基盤を築いています。

2025年度は「VISION2025」の最終年度であり、これまでの成果を確実に定着させ、次なる成長ステージへの飛躍を目指す重要な1年となります。当社は、時代の変化に迅速に対応し、新たな価値を創造し続ける企業であり続けます。

代表取締役 社長執行役員 最高経営責任者（CEO）

江口 祥一郎

JVCKENWOOD

約100年にわたる歴史の中で培った、当社グループの強みである
「映像」「音響」「通信」技術を生かすとともに、「デザイン経営」の手法を取り入れて、
「感動」と「安心」を提供する製品やサービス、ソリューションを生み出しています。

1927

日本ビクター蓄音器
株式会社設立



1939

日本初のテレビジョン
受像機完成



1976

家庭用VHSビデオカセット
第一号機「HR-3300」を発売



日本ビクター
株式会社

株式会社
JVCケンウッド

2008

日本ビクター株式会社と
株式会社ケンウッドが経営統合

2011

株式会社JVCケンウッドが
誕生

2014

北米向けデジタル無線規格P25に対応
した業務用無線システムを手がける「EF
Johnson Technologies, Inc.」を連結
子会社化

EFJohnson
a JVCKENWOOD Company

2015

欧州の車載用部品事業会社
「ASK Industries S.p.A」
を連結子会社化

ASK

2016

業務用システム事業の拡大を目指
して、「株式会社JVCケンウッド・
公共産業システム」を設立

株式会社
ケンウッド

1962

業界初のトランジスタ
アンプ「TW-30」を発売



1957

日本メーカーとして初めてFMチューナー
「FM-100」の輸出を開始



1946

有限会社春日無線電機商会を設立
し、高周波コイルの製造を開始



2011

高画質と高速レスポンスを実現した
“彩速ナビ”の初代機「MDV-727DT」
を発売



2014

高精細で鮮明なフルHD映像
の記録が可能なドライブレ
コーダー「KNA-DR300」を
発売し、ドライブレコーダー
市場に参入



2013

8K解像度表示を実現した世界初の
量産モデル、業務用D-ILAプロジェ
クター「DLA-VS4800」を発売



2016

世界最小0.69型4K
「D-ILA」デバイスを
新開発



2023

業務用トライバンド対応P25
デジタル無線機「VP8000」
を発売。米国のデザイン賞
「IDEA 2023」のファイナリ
ストに選定



ブランド

KENWOOD

高品質、先進性、鋭さの想いをブラン
ドロゴの赤トライアングルに込め、
音と通信の技術を軸とした製品を
展開。無線システムや車載用製品・
サービスの展開を拡大中です。

JVC

音響／映像製品や車載用製品など
を主に海外市場において展開。常に
人々の生活に寄り添った製品やサー
ビスを提案します。

Victor

“His Master's Voice”で知られる
犬の「ニッパー」と共に親しまれて
います。既成概念にとらわれず、時代に
ふさわしい技術や製品を追求します。
(日本国内のみ)

会社概要

(2025年3月31日現在)

商号	：株式会社JVCケンウッド（英文名：JVCKENWOOD Corporation）
事業内容	：モビリティ&テレマティクスサービス分野 セーフティ&セキュリティ分野 エンタテインメント ソリューションズ分野
代表者	：代表取締役 社長執行役員 最高経営責任者（CEO） 江口 祥一郎
設立	：2008年10月1日
資本金	：136.5億円
従業員数(連結)	：15,151名
決算日	：3月31日
本社所在地	：〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地

事業概要と製品紹介

3つの事業分野で企業理念「感動と安心を世界の人々へ」を実現する製品やサービス、ソリューションを提供しています。

モビリティ&テレマティクスサービス分野



OEM事業

アフターマーケット事業

テレマティクスサービス事業

セーフティ&セキュリティ分野



無線システム事業

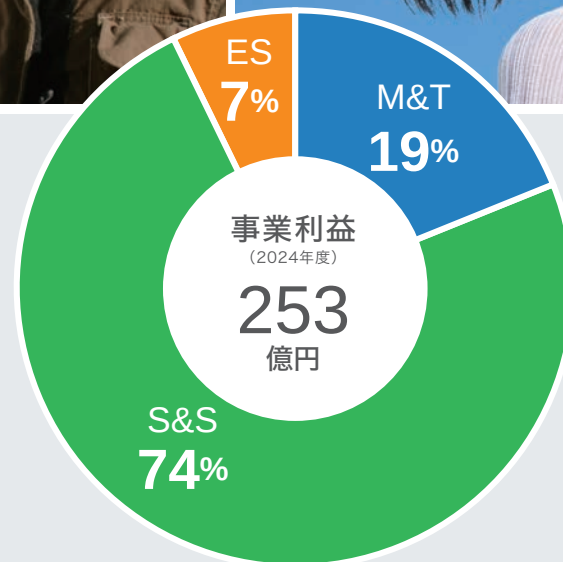
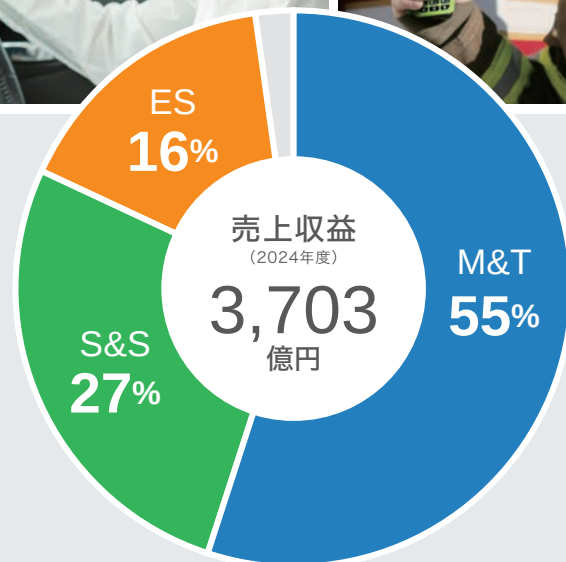
業務用システム事業

エンタテインメントソリューションズ分野



メディア事業

エンタテインメント事業



■ M&T: モビリティ&テレマティクスサービス分野 ■ S&S: セーフティ&セキュリティ分野 ■ ES: エンタテインメントソリューションズ分野



モビリティ&テレマティクスサービス分野

快適かつ安心・安全な車室空間に寄与する製品やサービス、ソリューションを展開しています。

OEM事業

大手自動車メーカー向けに製品を展開しています。国内ではカーナビゲーションやドライブレコーダーなどを提供。海外では北米や東南アジア向けにディスプレイオーディオ、欧州や中国向けに車載用アンプ、スピーカー、アンテナ、ケーブル、レンズモジュールなどを提供しています。



車載用アンプ



スピーカー



レンズモジュール



アンテナ



ケーブル



ディスプレイオーディオ

アフターマーケット事業

カー用品店や代理店向けに製品を展開しています。国内ではカーナビゲーション「彩速ナビ」シリーズやドライブレコーダーなどを提供。海外ではディスプレイオーディオやカーオーディオ、アンプ、スピーカーなどを提供しています。



カーナビゲーション
「彩速ナビ」シリーズ



ドライブレコーダー



ディスプレイオーディオ

テレマティクスサービス事業

通信型ドライブレコーダーやクラウド型配車システムを損害保険会社やタクシー会社などに提供しています。



通信型ドライブレコーダー



防塵・防水仕様
通信型
ドライブレコーダー

「ドライブに感動と安心を」―「彩速ナビ」が届ける、走る喜び。

当社がカー用品店などで展開している「彩速ナビ」は、「高画質」と「高速レスポンス」を追求したカーナビゲーション。高精細で鮮やかな「高画質」映像により地図はもちろん、映像コンテンツも美しく再現し、車内をエンターテインメント空間として演出します。また、独自のデータ圧縮技術により地図データベースを効率的に処理し、素早く検索や表示ができる圧倒的な「高速レスポンス」を実現。自社開発のアルゴリズムにより高精度な自車位置情報と最適なルートも提供します。さらに、ハンドルから手を離さず操作できる音声操作や、高速道路を走行中に逆走状態を検知した場合の警告など、安心・安全をサポートする機能も充実。「彩速ナビ」は、長年にわたり培った技術の力で、ドライバーに走る喜びを届けます。





セーフティ&セキュリティ分野

人々の命と暮らしを守り、安心・安全なまちづくりに寄与する製品やソリューションを展開しています。

無線システム事業

国内外の警察・消防・救急などの「公共安全市場」や、鉄道・空港・教育機関などの「民間市場」向けに業務用無線システムを提供しています。また、飲食店やアパレル店舗、建設工事現場などに向けて免許や資格がなくても使用できる特定小電力トランシーバーや祖業事業のアマチュア無線機、林業向けソリューションなども展開しています。



業務用デジタル無線システム“Viking”シリーズ
(中央)携帯型 (両端)車載型

特定小電力トランシーバー
“DEMITOSS”シリーズ

デジタル簡易無線中継システム

アマチュア無線機

業務用システム事業

国内向けに監視カメラなどのセキュリティカメラシステムや業務用放送システムを提供しています。また、国内外の病院向けに医用画像表示モニターを展開しています。



セキュリティカメラシステム

医用画像表示
モニター

北米で警察・消防・救急の人命救助の現場で活躍

当社の業務用無線システムは、北米の警察官や消防士と過酷な現場を共にする、まさに相棒のような存在です。業務用無線は1対複数で即時通話ができ、緊急時や災害時に強く、高品質で堅牢性が高いという特長があります。業務用デジタル無線機「VP8000」は、火災現場の煙や暗闇の中で落とした際も見つけやすい蛍光色のグリーン、上部の幅が広く手から滑り落ちにくい形状、アンテナ直下に配置した「エマージェンシーボタン」など、ユーザー目線でデザインを工夫し、業務遂行をサポートします。有事でも確実にコミュニケーションをとることができる無線システムの提供を通じて、安心・安全なまちづくりに貢献します。

▶ 関連情報「過酷な環境での使用に耐える製品設計」(P.10)



業務遂行を
サポートする
デザイン

北米の警察や消防で活躍



エンタテインメント ソリューションズ分野

音楽や映像を通じて人々の心や生活を豊かにする製品やソリューション、コンテンツを展開しています。

メディア事業

ヘッドホン、イヤホン、オーディオシステム、ホームシアタープロジェクターなどの音響・映像機器を提供しています。また、フライトシミュレーター向け業務用プロジェクターなどのソリューションビジネスを展開しています。



ヘッドホン/
イヤホン

ホームシアター
プロジェクター

オーディオシステム

フライト
シミュレーター

エンタテインメント事業

数多くの人気アーティストの楽曲や映像コンテンツの配信、CD/DVD/Blu-rayパッケージ販売に加え、イベント開催やライブハウス「Veats Shibuya」の運営、ピクスタジオの運営、グッズ販売などの周辺ビジネスを幅広く展開しています。



音楽・映像コンテンツ
サザンオールスターズ

イベント開催

星野 源

サカナクション

MILK

ライブハウス・スタジオ運営

「原画探究」一息をのむほどの映像美、新たな感動空間を！

大画面でリアリティのある映像美を楽しめる、当社のホームシアタープロジェクター。美しい映像を実現する高精細・高コントラスト・高輝度の秘密は「D-ILA」デバイスにあります。0.69インチのデバイスの中に並ぶ約880万個の液晶を制御する技術は、サッカーグラウンドに米粒一つ一つを並べるような緻密なもの。プロジェクター開発の匠たちが四半世紀にわたり貫いてきた開発思想「原画探究」は、コンテンツクリエイターの映像へのこだわりを余すところなく表現し、作品に込められた想いをそのままユーザーに届けることです。この「原画探究」の思想のもと、創造力と最先端技術の融合で進化し続け、新たな感動空間を提供していきます。



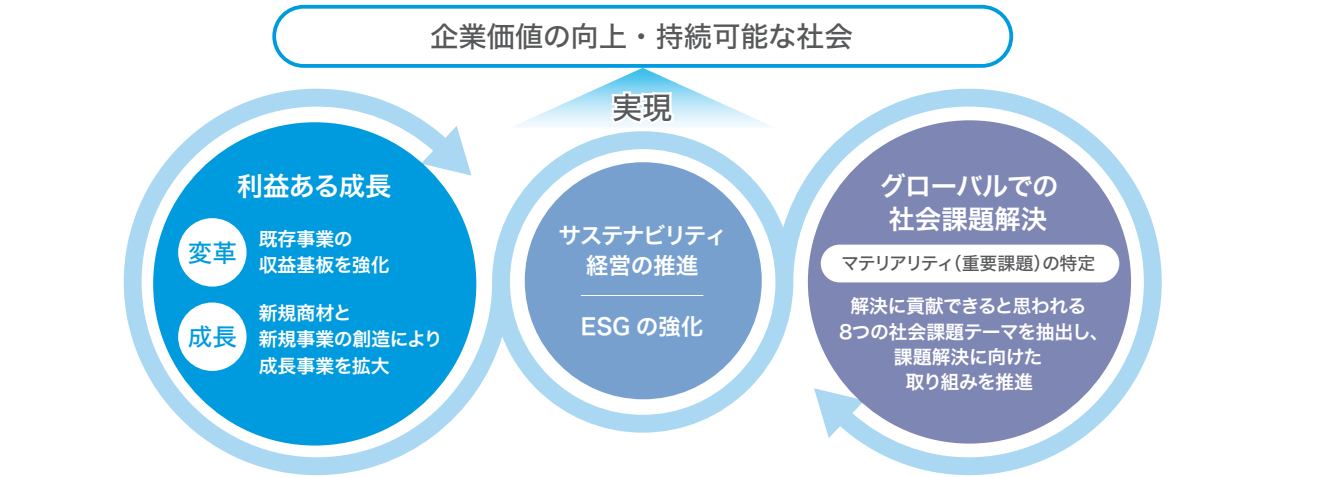
「D-ILA」デバイス

サステナビリティ

「利益ある成長」と「グローバルでの社会課題解決」を両輪とするサステナビリティ経営

JVCケンウッドグループは、社会情勢の変化に対応するために、正確な情報把握とステークホルダーとのエンゲージメント強化に努め、「利益ある成長」と「グローバルでの社会課題解決」を両輪として、企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指す必要がある

と考えています。「感動と安心を世界の人々へ」という企業理念のもと、当社グループが持つ「映像」「音響」「通信」技術の強みを生かすとともに「デザイン経営」の手法を取り入れて、一人一人の安心・安全な暮らしを守るための製品やサービスを提供していきます。



1 安心・安全への取り組み

安心・安全なまちづくり
過酷な環境での使用に耐える製品設計

セーフティ&セキュリティ分野では、業務用デジタル無線機「VP8000」の設計開発において、高い防塵・防水性能を追求し、強度と耐久性に優れた材料を採用。災害発生時などの過酷な環境下でも機能する性能を備えます。また、防水パッキングをホルダーと一体成型することにより、従来モデルよりも高いシーリング性を確保しつつ組み立ても容易になり、生産担当者の負担軽減や歩留まり向上にも貢献しています。



私たち技術者が現地へ出向き、ユーザーである警察や消防の過酷な使用状況を知ったことが、実使用に結び付いた設計目標を定めるきっかけとなりました。

2 環境への対応

気候変動への対応
プラスチックを削減し、梱包作業性も向上した緩衝材

モビリティ&テレマティクスサービス分野では、国内アフターマーケット向けカーナビゲーション「彩速ナビ」において「再生原材料使用による脱プラスチック」を目指して、2024年モデルからパルプモールド緩衝材を新たに採用し、発泡部材（プラスチック）を削減。さらに、製品本体を置くだけで閉じるV字形状を採用し、梱包作業性も向上しました。



技術的・価格的に難しい点もありましたが、設計の工夫で付加価値を持たせることができました。今後は他機種にも導入を考えています。

JVCケンウッドグループのマテリアリティ

JVCケンウッドグループは、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献するために、3つのマテリアリティ（重要課題）の特定、さらに、マテリアリティと連動したKPIを設定するとともに、グローバルに管理できる仕組みの構築に取り組んでいます。および企業基盤の強化に向けた取り組みを策定しました。



3 持続可能なものづくり

ものづくり改革
生産自動化の推進による省人化

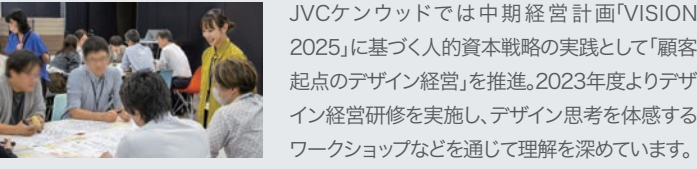
JVCケンウッド長野では、カーナビゲーションの組み立てや検査において、アームロボットを使用して自動化することにより、省人化、工程の安定化を実現。海外工場では工程に作業員32名を要していましたが、長野では9名となりました。また、ライン直行率99.7%以上の品質を確保しています(2023年度実績)。



機構だけでなく、ソフトや回路など技術全般を理解したゼネラリストとして、自動装置の設計に取り組みました。

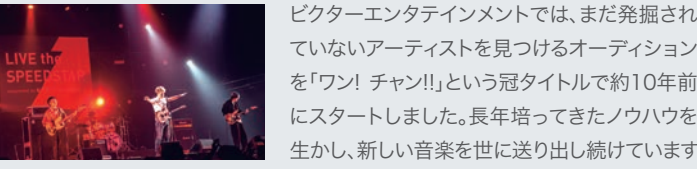
企業基盤の強化

従業員の活躍促進
デザイン経営研修を開催



この研修により「顧客志向」が醸成されることで、「価値創造する力」や「コミュニケーションする力」が強化され、ひいては従業員一人一人の活躍推進につながると考えています。

新人アーティスト発掘オーディション
ワン!チャン!!オーディション



2023年開催「ワン!チャン!!〜幕張メッセへの道〜」グランプリ受賞バンド「Maverick Mom」のステージ(幕張メッセ)

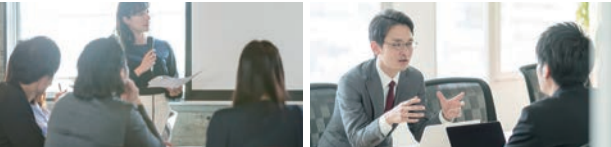
新しい才能と出会うために、常にアンテナを張り、いろいろな入口を探し続けています。まだ知られていなかった人にファンがつき、多くの人たちが聴いてくれるアーティストに育っていくことに、やりがいを感じています。

イノベーションを実現する人材の育成と組織能力の強化



能力・キャリア開発を支援する「JVCKENWOOD Career Design」

当社は、自らの経験を生かしながら「将来のありたい姿」の実現を支援するため、従業員が積極的に学べる環境を整えています。「人材要件定義書」に基づく人材要件レベルの設定と育成計画の実行、キャリア面談、個別キャリア開発講座の受講支援、キャリアデザイン研修など、4つの主要な取り組みを通じて、従業員一人一人のスキルアップと自己実現を促進しています。



多様性の尊重と働き方改革

1 ダイバーシティ&インクルージョン
多様性が尊重される組織風土づくりに継続して取り組むことで、イノベーションの創出と事業を通じた持続的社会への貢献を目指します。

▶ 同性パートナーを配偶者を含める人事施策
事実婚の相手方と同性パートナーを社内制度上の配偶者を含める人事施策を実施しています。

▶ 女性活躍推進 (2025年3月末時点)
研修の実施や育児、介護などの休暇制度を整備しています。
・女性管理職比率 8.1%
・女性採用比率
新卒:34% 中途:25%
・女性育休取得率 100%

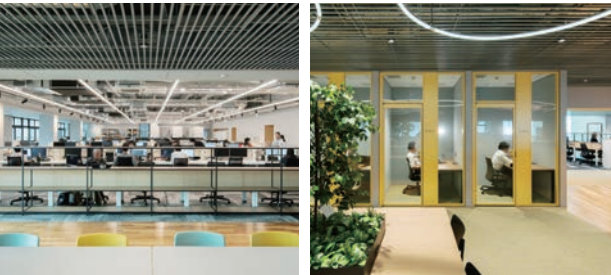


▶ 男性の育児休業取得推進
男性育休取得率100%達成に向けた取り組みを推進しています。
・全管理職を対象とした男性育休取得推進研修を実施
・配偶者の妊娠・出産予定を申し出た男性従業員に育休取得の意向を確認
・育児目的休暇の整備

2 時間・場所にとらわれない柔軟な働き方
ワーク・ライフ・バランスを図りながら効率的に働くことができる制度の導入や環境の整備により、柔軟な働き方を実現します。

▶ スーパーフレックスタイム制度
コアタイムの撤廃、フレキシブルタイムの拡大、「非労働日」設定による週休三日制、中抜けルールなどを整備しています。

▶ ハイブリッドワーク
オープンコミュニケーションの活性化を目指し、価値創造の拠点「Value Creation Square」を軸としてオフィス環境を整備するとともに、在宅勤務やサテライトオフィスなども柔軟に活用できる人事制度を整備しています。



健康経営

従業員一人一人が共に健康であることを重要な経営課題と認識し、「JVCケンウッド健康宣言」を発信して「全ての従業員が健康で生き生きと働くことができる職場環境」の整備を推進しています。当社は、経済産業省と日本健康会議が共同で運営する「健康経営優良法人2025」の大規模法人部門において「ホワイト500」、およびスポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」に認定されています。

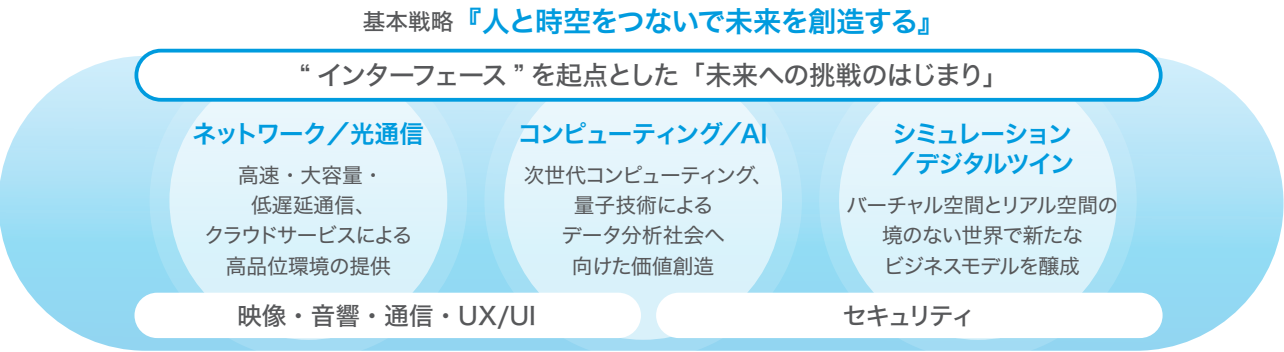
▶ 詳細は当社Webサイトをご覧ください
<https://www.jvckenwood.com/jp/sustainability/social/>



未来を見据えた研究開発と新規事業創出

当社の強みである「映像」「音響」「通信」技術を生かし、「デザイン経営」の手法を取り入れ、「未来創造研究所」と「イノベーションデザインセンター」の2つの研究開発部門(R&D)にて、未来を見据えた研究・技術開発を通じて、人が持つ本能・欲求に応えるテク

ノロジーによる持続的な価値の提供を図ります。これにより、技術開発の基本戦略として掲げている「人と時空をつないで未来を創造する」の実現を目指します。



未来創造研究所

—10年先の未来を見据えた新たな価値の創造

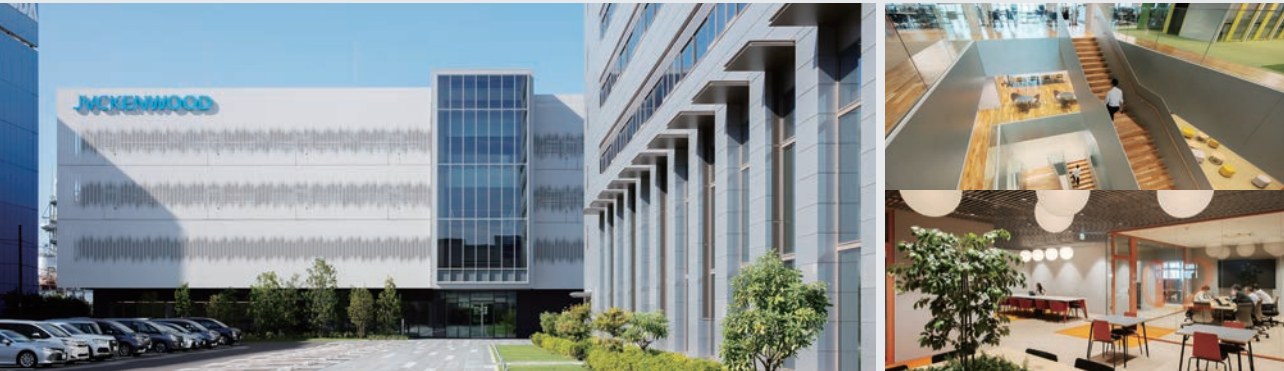
当社が長年にわたり培ってきた「映像」「音響」「通信」技術に加え、ネットワーク/光通信、コンピューティング/AI、シミュレーション/デジタルツインをテーマに掲げ、あらゆるものにつながる新しいインターフェースに向けた研究開発を進めます。

イノベーションデザインセンター

—オープンイノベーションを加速

「デザイン経営」を実践し、新たな事業機会の創出・発掘に向けたインターフェース開発、およびサービス基盤の開発を実行する組織です。多様な人材が集まり、当社技術と顧客起点のマーケティングを基に“稼げるビジネス”の仮説を立てて概念検証し、「新たな価値」となるイノベーションの創出を図ります。

価値創造の拠点「Value Creation Square」
～未来を先取りする発想を生み出し、持続的なイノベーションの創出へ～



2024年12月に本社横浜地区に国内事業所を集結。新ビル「Hybrid Center」には、アイデアを生み出す空間や試験・評価設備を整備しました。従業員やチームが互いをよく知ることで蓄積された「知」(ノウハウ、知識など)を共有し、そこに生まれた“摩擦”により新たなアイデアの創出につなげます。



JKC PLAZA
床を掘った構造で気軽に立ち寄りやすく、アイデアの議論やピッチなどができるエリアです。



電波暗室
車が入る大規模施設を含めた3つの電波暗室を備えています。車載機器や無線機器の実験、各種製品のノイズ試験・測定を行う設備です。

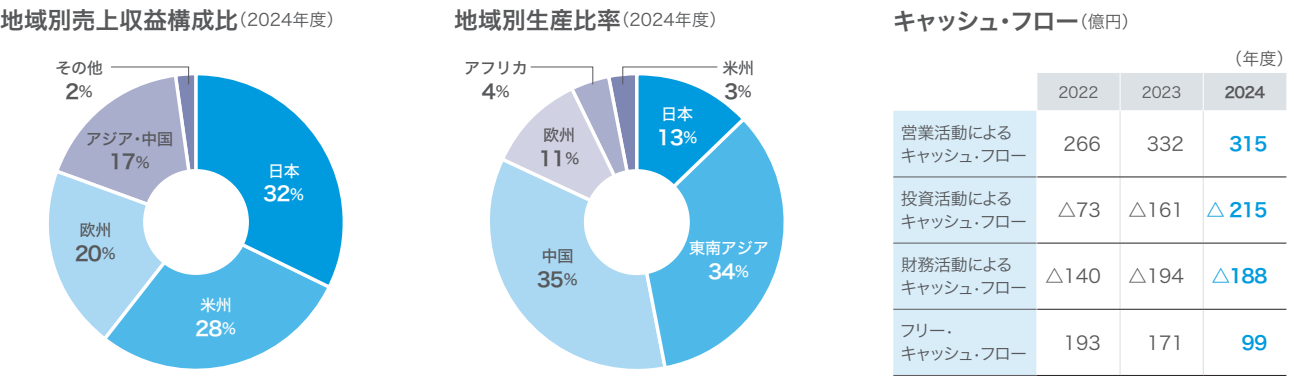
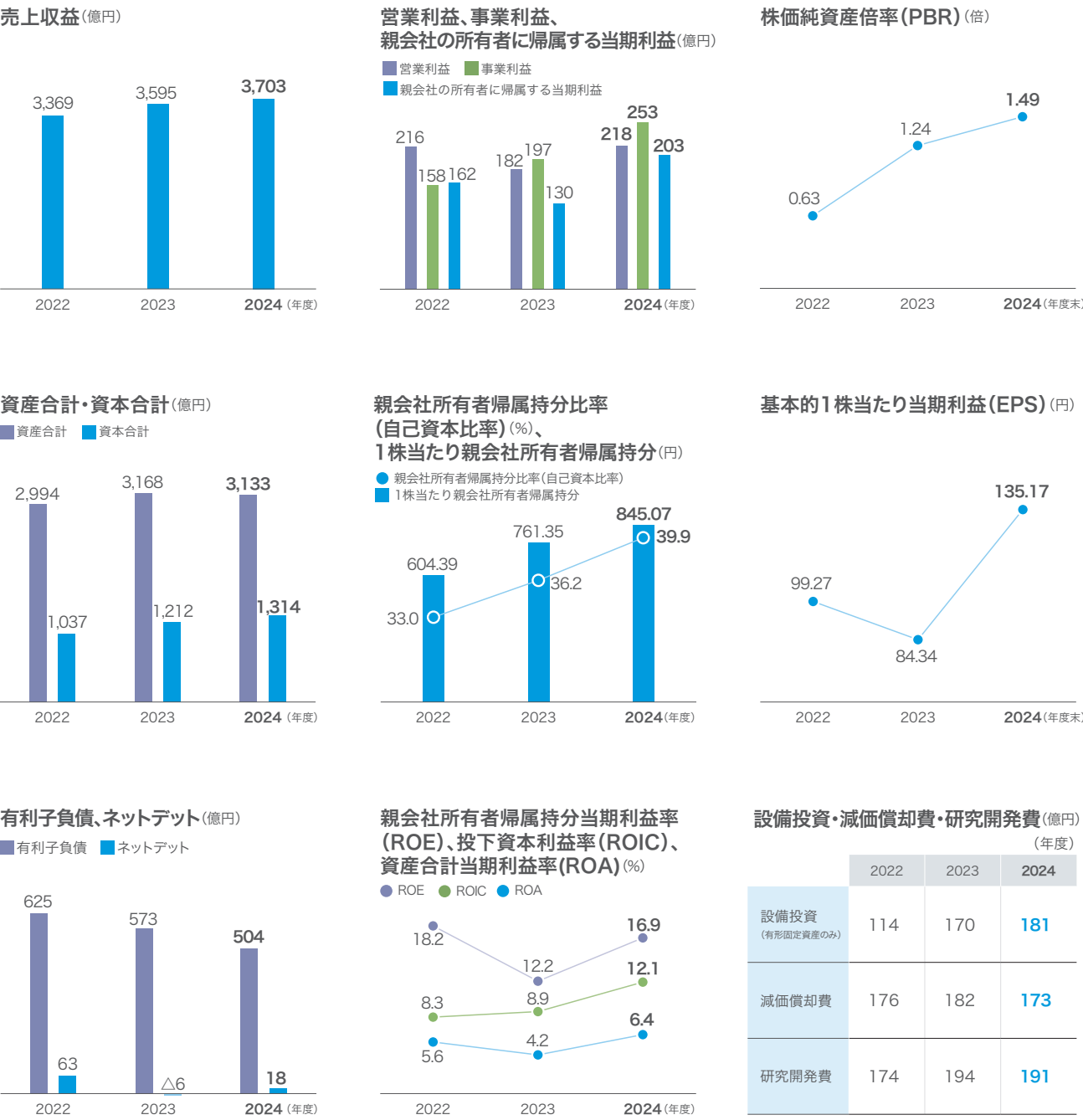


無響室
壁、天井、床の部屋全面に吸音材を設置し、音の反射を最小限に抑えた設備です。音響機器の測定や性能評価を行っています。



恒温槽・熱衝撃試験室
製品の温度耐性を評価するため一定の温度(高温・低温)を維持できる恒温槽と、熱衝撃槽を設置しています。

数字で見るJVCケンウッドグループ ※国際財務報告基準(IFRS)ベース



国内・海外ネットワーク (2025年6月25日現在)

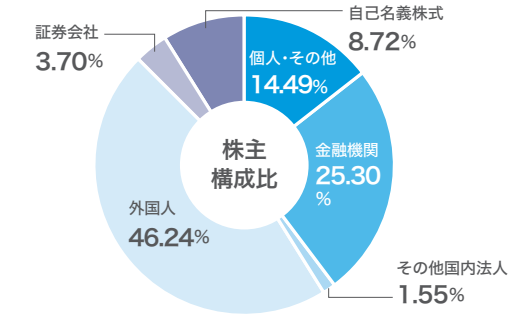


役員紹介 (2025年6月25日現在)

浜崎 祐司	社外取締役 取締役会議長
江口 祥一郎	代表取締役 社長執行役員 最高経営責任者 (CEO)
鈴木 昭	代表取締役 専務執行役員 セーフティ&セキュリティ分野責任者、SCM改革担当
宮本 昌俊	代表取締役 専務執行役員 最高財務責任者 (CFO)
野村 昌雄	取締役 専務執行役員 モビリティ&テレマティクスサービス分野責任者
林 和喜	取締役 常務執行役員 コーポレート部門担当
園田 剛男	取締役 常務執行役員 最高技術責任者 (CTO) 最高情報セキュリティ責任者 (CISO)
鬼塚 ひろみ	社外取締役
平子 裕志	社外取締役
平野 聡	社外取締役
栗原 直一	取締役 (常勤監査等委員)*
藤岡 哲哉	社外取締役 (監査等委員)*
海老沼 隆一	社外取締役 (監査等委員)*
小橋川 保子	社外取締役 (監査等委員)*
寺田 明彦	常務執行役員 中国総代表
佐藤 勝也	執行役員 セーフティ&セキュリティ分野 無線システム事業部長、同分野責任者補佐
村岡 治	執行役員 海外地域担当、海外マーケティング本部長
関谷 直樹	執行役員 国内マーケティング本部長
鎌田 浩彰	執行役員 新興国マーケティング担当 (インドネシア駐在)
原田 久和	執行役員 EF Johnson Technologies, Inc. 出向、セーフティ&セキュリティ分野責任者補佐
中井 純子	執行役員 コーポレート部門担当補佐、サステナビリティ推進室長
佐藤 博之	執行役員 モビリティ&テレマティクスサービス分野 アフターマーケット事業部長
大浦 徹也	執行役員 エンタテインメント ソリューションズ分野責任者、同分野 メディア事業部長

*当社は2025年6月25日付で、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行しました。

株式関連情報 (2025年3月31日現在)



社外からの評価





株式会社 JVCケンウッド

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地
<https://www.jvckenwood.com/jp/>



●本誌に関するお問い合わせ先

企業コミュニケーション部 広報グループ
E-mail : pr_info@jvckenwood.com

© 2025 JVCKENWOOD Corporation
JK0057